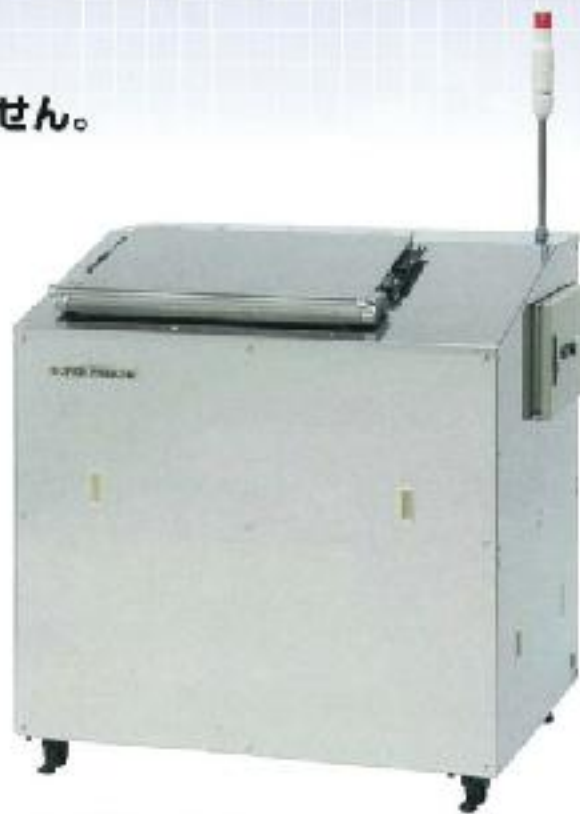


バイオのチカラが決め手!

「スーパー・パーカー」は消滅型の生ごみ処理機です。

- ◎手間がかからず衛生的です。その上、処理生成物(残渣)がでません。
- ◎水を使用するので、水切りの手間がいりません。

生ごみ + 微生物 = 炭酸ガス + 水



リサイクルという観点からすれば、堆肥化も素晴らしいのですが、次のような問題があります。

- 生成物はすぐに堆肥として使用できないため、二次処理が必要で土地・時間・手間がかかります。
- 残飯などに含まれる糖分・食品添加物は分解されず残ってしまいます。
- さまざまなものを処理するので、生成された堆肥の成分・品質が安定しません。
- 生成物の保管・維持、運搬費用コストがかかります。
- 保管時の臭い・腐敗が懸念され、衛生面で問題があります。

社会的に深刻なごみ問題! 今、生ごみの問題は重要な課題です。

年間約2,000万トンにおよぶ生ごみは、その90%以上が焼却または堆肥による処理がされています。また、生ごみは水分が多いため、焼却炉の温度が上がりにくくなっています。

そして、生ごみの焼却・運送による影響には次のことがあげられます。

- 不完全燃焼による**ダイオキシンの発生**
- 大気および土壌の汚染、地球温暖化
- 莫大な焼却炉の建設・維持費用

「スーパー・パーカー」は、こうした生ごみの問題を解決し、生ごみの減量化に役立ちます。



法的整備も進み、 社会的な流れも変わりつつあります。

環境への負荷を軽減し、持続的な発展ができる循環型社会を構築することをめざして、国ではさまざまな法的整備が進んでいます。

主な法的整備

- 平成11年/「廃棄物減量化目標」設定
- 平成13年5月/「食品リサイクル法」制定
- 平成13年6月/「循環型社会形成推進基本法」制定

食品リサイクル法

食品関連業者(製造・流通・販売・飲食等)は、2006年(平成13年)までに食品廃棄物である**生ごみを20%削減**することを義務付けています。

発生の抑制

減量・削減

再生利用

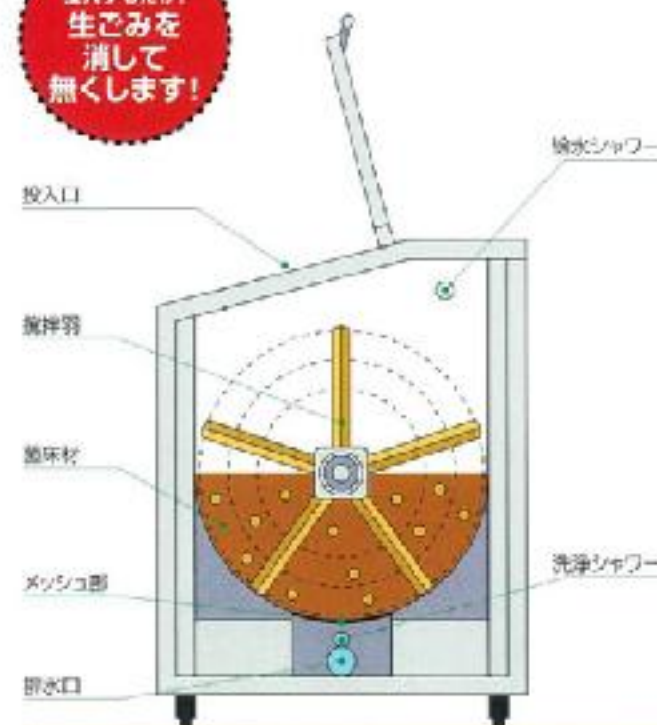
Market View

生ごみ**20%削減**

業務用消滅型生ごみ処理機「スーパー・パーカー」のしくみ

「自然のチカラ」すごいバイオが大活躍!!

フタを開けて投入するだけ! 生ごみを消して無くします!



●バイオ菌(微生物)は、自然界に存在する土壌菌を使用していますので、人肌に触れる事はありません。

●バイオ菌の投入はSP-10・SP-20で手動、SP-30・SP-100では自動投入になります。



■処理後400倍の量

1 生ごみ投入

フタを開けて生ごみを「スーパー・パーカー」に投入します。なお、あらかじめ処理できないものは取り除いてください。

2 給水開始

水をかけることにより、生ごみが柔らかくなり、分解されやすくなります。また、臭いも抑えられます。

3 自動運転(攪拌)開始

攪拌羽が回転し、生ごみと菌床材を混ぜ合わせます。攪拌羽は、1時間サイクルで数分間回転します。

4 分解

バイオ菌(微生物)が生ごみを約2~8時間で、水と炭酸ガスに分解します。ただし、生ごみの種類によっては時間がかかるものもあります。

5 排水

生成された水分はメッシュ部から流れ出し、下水道や浄化槽へ排水されます。

6 終了・洗浄

攪拌が終了すると、自動的にメッシュ部が詰まらないように洗浄します。

生ごみ処理機導入について

生ごみ処理機においては、「コストがかかる」というデメリットはありますが、それを上回る次のような大きなメリットがあります。

- 社会貢献
- 環境負荷低減
- 衛生管理
- イメージアップ

主な導入先とメリット

- ISO14000取得企業/環境負荷低減
- 食品関連事業者/食品リサイクル法
- 公共施設・学校・給食センター/ごみ問題は自治体から
- 病院・福祉施設/衛生管理の徹底
- 宿泊施設・観光地/清潔感